

高等学校ロボット相撲選手権2022感染症予防策一覧

○発生源対策

| |
|---|
| ・出場者、関係者、スタッフとも当日検温を実施し、37.5℃以上の体温があるものは会場、控室への入場を禁止 |
| ・出場者、関係者、スタッフとも過去2週間に係る体調チェックシートの提出を実施。チェック内容を確認し、該当項目があり基準に触れる場合は、会場、控室への入場を禁止 |
| ・出場者、関係者、スタッフとも患者発生時などは保健所に個人情報を提供する旨の内容に、事前に同意を得る |
| ・当日発症者が出た場合は、救護室などへ隔離ののち速やかに帰宅させ、消毒・換気を実施する |
| ・全国巡回スタッフについてはPCR検査を実施し、実施時点の陰性を確認の上業務につく |

○感染経路対策

| |
|---|
| ・会場、ピットの机、椅子などの備品に関しては、エタノールなどで定期的に清拭消毒を行う |
| ・出場者、関係者、スタッフとも定期的に手指消毒を行うことを徹底。トイレ使用後は洗浄液での手洗いのほか、エタノールなどでの消毒を徹底。消毒液は、ピット、控室ともに設置。 |
| ・出場者、関係者、スタッフとも正しいマスク着用の徹底。マスクを外す機会を作らない為に、控室での食事の禁止 |
| ・観客に関してもマスク着用の徹底、会場に消毒液を設置の上手指消毒の協力を求める |
| ・控室と会場との動線を固定化することにより、不特定多数との接触を極力減らすことでリスクを低減する |
| ・会場、控室などでの大声を出すことを控えるよう求める |
| ・必要に応じて、使用するトイレを指定する |
| ・観客に新型コロナ接触確認アプリ(COCOA)のDLを促す。開催各府県で独自の追跡システムがある場合は、併せて案内する |

○密閉空間に関する対策

| |
|---|
| ・会場は施設の換気装置を使い常時換気を行う |
| ・控室に関しては、窓のある場所は窓、扉を常時開放し換気を行う。窓がない場合は換気扇、ファンなどを設置して常時換気を行う |

○密集場所に関する対策

| |
|--|
| ・ピット、会場、控室ともに最低1m以上間隔が空くように席を配置する。また、それが難しい場合は飛沫防止パネルなどを設置し、飛沫の飛散を防止する |
| ・立ち見観客エリアに関しては、観客同士の間隔が空くように足元に立ち位置表示を設置 |
| ・出場者受付時の密集を避けるため、時間差にて集合、受付を行う |
| ・ピットに関しては一人用のテーブルを使用して、密を避けるレイアウトとする |
| ・ピットの定員を着席可能人員とし、定員以上の入場を行わない |
| ・密集を避けるために開会式は行わない。また、表彰式は各部門優勝者のみの参加とする。 |
| ・土俵周辺に観客が密集しないように、大型モニターを会場から離れたところに設置し、対戦の様子を放映する |

○密接場面に関する対策

| |
|--|
| ・ピット、控室ともに向かい合うレイアウトは行わない |
| ・水分補給などでマスクを外す場面では声を出さないなどの行動の徹底を行う |
| ・インターネット環境の活用により、来場しなくても観戦を楽しめる取り組みを行う |